

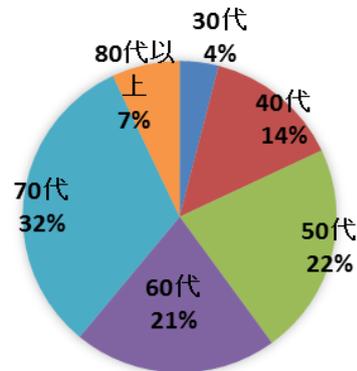
平成 27 年度 多職種連携協議会 市民向け講演会 2016 年 2 月 11 日 開催
アンケート結果

参加者: 140 名 アンケート回収数: 101 名

問 1. 参加者の年代

年齢別	人数
20 歳以下	0
20 代	0
30 代	4
40 代	14
50 代	22
60 代	21
70 代	32
80 代以上	7
合計	100

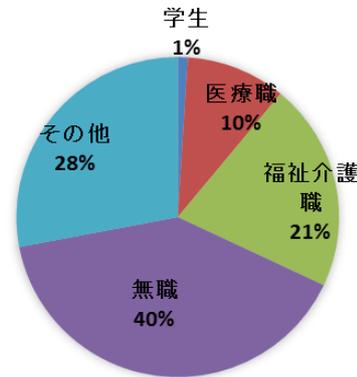
参加者年齢別人数



問 2. 参加者の職業

職業別	人数
学生	1
医療職	10
福祉介護職	21
無職	40
その他	28
合計	100

参加者の職業



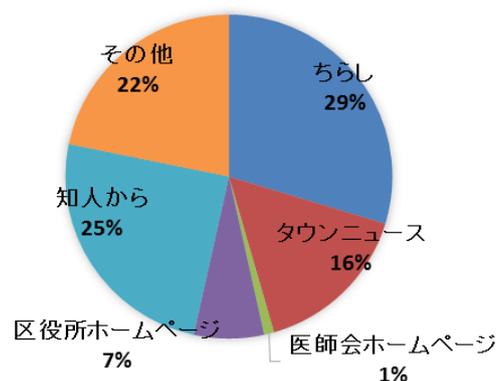
■その他の内訳

会社員	3	生命保険営業	1
会社員役員	1	専門職	1
緩和ケア病棟ボランティア	1	葬儀社	1
教育	1	町会長、民生委員	1
区	1	年金生活者	2
子育て支援者	1	農業	1
自営業	1	保育士	1
主婦	3	民生委員	1
スポーツ指導員	1	幼稚園教諭	1

問 3. 講演会の情報の入手先

情報の入手先	人数
ちらし	30
タウンニュース	16
医師会ホームページ	1
区役所ホームページ	7
知人から	25
その他	22
合計	101

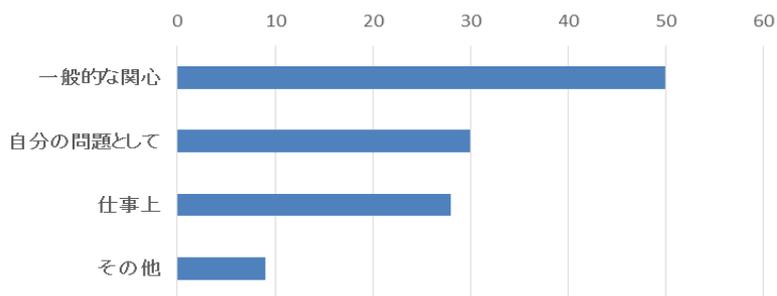
講演会情報の入手先



問4. 「死を学ぶ」というテーマの講演会への参加動機（複数回答可）

参加動機	人数
一般的な関心	50
自分の問題	30
仕事上	28
その他	9
合計	117

「死を学ぶ」というテーマの講演会への参加動機



■その他の参加動機

- ・たまたま、絵本が語る生と死についていろいろと調べている途中であったから
- ・子どもに死のコンセプトを理解してもらおう事の重要性の認識から
- ・去年妹を亡くしてから
- ・今、身内に死と向かい合っている人がいる。私自身、どの様に考えていけば良いのか、参考にしたいと思います。
- ・ボランティア
- ・幼児、背後のご家庭(特にお母さん)に良く生きることを伝えるきっかけになればと

■一般的なテーマとして「死を学ぶ」に関心がある50人の年齢別・職業別内訳

年齢別	人数	全体の人数	割合
30代	2	4	50.0%
40代	6	14	42.9%
50代	7	22	31.8%
60代	14	21	66.7%
70代	16	32	50.0%
80代以上	4	7	57.1%
合計	49	100	49.0%

職業別	人数	全体の人数	割合
学生	1	1	100.0%
医療職	4	10	40.0%
福祉介護職	6	21	28.6%
無職	23	40	57.5%
その他	15	28	53.6%
合計	49	100	49.0%

■自分かの抱えている問題として「死を学ぶ」に関心がある30人の年齢別・職業別内訳

年齢別	人数	全体の人数	割合
30代	2	4	50.0%
40代	5	14	35.7%
50代	6	22	27.3%
60代	5	21	23.8%
70代	10	32	31.3%
80代以上	2	7	28.6%
合計	30	100	30.0%

職業別	人数	全体の人数	割合
学生	1	1	100.0%
医療職	3	10	30.0%
福祉介護職	9	21	42.9%
無職	10	40	25.0%
その他	7	28	25.0%
合計	30	100	30.0%

■仕事の上で「死を学ぶ」に関心がある28人の年齢別・職業別内訳

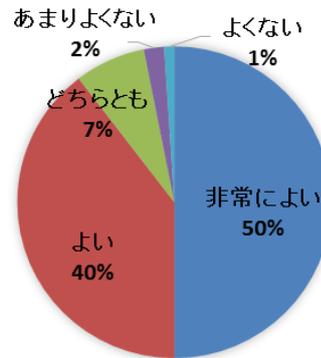
年齢別	人数	全体の人数	
30代	3	4	75.0%
40代	7	14	50.0%
50代	13	22	59.1%
60代	1	21	4.8%
70代	2	32	6.3%
80代以上	2	7	28.6%
	28	100	28.0%

職業別	人数	全体の人数	
学生	0	1	0.0%
医療職	7	10	70.0%
福祉介護職	13	21	61.9%
無職	1	40	2.5%
その他	7	28	25.0%
	28	100	28.0%

問5. 講演会の評価

評価	人数
非常によい	48
よい	38
どちらとも	7
あまりよくない	2
よくない	1
合計	96

参加者の講演会評価



問6. 今後、どのような講座を期待するか

■「死生観」や「看取り」に関すること

- ・死に向かって日々をどのように生きるのかという事もお話をうかがってみたい。
- ・大切な人の死とどう向き合って生きるか
- ・在宅でのみとりについて。
- ・看取りの現場からの話
- ・身近な存在のターミナルケア、過ごし方
- ・人が死に近づいた時に起きる身体の様子について。どのように見守ってあげたらよいのか。
- ・エンディングノートについて、死についてのまとめ方
- ・同様のテーマで知識よりも精神性を豊かにしてくれるような講座をお願いしたい(仏教からの人生観など)

■「医療」について

- ・脳死、臓器移植について
- ・安楽死
- ・終末医療について
- ・在宅医療の具体的な取り組みについて

■「若い」について

- ・「若いを生きる」としてそれを支える世代はどうすべきか。(例えばプライドや意欲を傷つけることなく免許を返納してもらう事、お金の管理をまかせてもらうことなど、老親の立場、気持ちをもっと理解できたらと思います。)
- ・老後をどう有意義に生きたら良いか。
- ・老人病全般の先端医療、薬のあれこれ

■その他（感想等含む）

- ・人権関連
- ・最後まで元気にすごす方法（ピンピンコロリ）
- ・認知症にならない
- ・犯罪と刑罰
- ・夢と死の相関図
- ・ネグレクトについて
- ・夫婦（パートナー）がお互いに幸せに元気で過ごしていくためにはどうすればよいのか。
- ・「命」についての講演を是非に開催頂きたいと思います。医師会に属されている医師の方々に今問題となっている「電磁波過敏症」の問題について医師としてどう向き合っておられるのか是非伺いたい
- ・「死」についてシリーズのように講演会を開いてもらえるとありがたい。
- ・今回の講演をくり返して特に福祉関係の人が多く受講できるようになると良いと思います。
- ・この様な会にどんどん参加したい。
- ・お任せいたします。何でも可。
- ・又、市民講座ありましたら必ず出席したいです。
- ・いつもありがとうございます。お任せいたします。

問7. その他（意見・感想）

（学生）

- ・絵本は子供だけではなく、高齢者の方にも読み聞かせになるのではないかと思います。これからもこのような企画を考えて、頑張っていたきたいと思います。(60代)

（医療職）

- ・死をタブー化しないというコトバがすごく残りました。訪問看護の世界で人の死と向き合うことがあるので、本人、家族が受け入れていけるようかかわっていきたいと思いました。(30代)
- ・大変貴重な機会を頂きました。心が豊かになりました。ありがとうございました。(40代)
- ・高齢の方が多く来られていて素晴らしいと思いました。私もこのように理性的におちついて老いに向かいたいと思いました。「ぞうさんのお話が聞ける」と小さなお子さんを連れていらした若いお母様がいらっしゃいました。(50代)

（福祉・介護職）

- ・宗教サイドの方とのパネルディスカッションのような形式も良かったかもしれない。(40代)
- ・講演会の機械があり「学ぶ」場を作っていただき、ありがとうございました。(40代)
- ・大切なことは目に見えないこと改めて思いました。(50代)
- ・「病院で死ぬのはもったいない」春秋社を読み、これまでの常識がくつがえされました。2025年にかけて必要な取り組みだと思います。(50代)

- ・死生観は新しく聞いた話だった。(50代)。
- ・死を受け入れる、事の大切さと怖さ、少し心がおだやかになりました。(70代)

（無職）

- ・日本における3人の代表的な…でアルフONSデーケン先生とあり、デーケン先生は日本人なのでしょうか？日本で活動する人？なんのでしょうか？と思いました（先生の言葉は英語だし…）何も知らなかった私には少し説明ほしかったです。(50代)
- ・本を読み考えてみたいと思う。死をタブー化しない、家族で話し合いたいと思う。(70代)
- ・高齢化の進む中で在宅医療は重要。(70代)
- ・今回の講演は普段あまり意識しない内容でしたが、参考になりました。色々関係者の皆様ご苦労様でした。(70代)
- ・1日1日を有意義に過ごさなければならぬと再認識しました。元気に生きられるのは長く生きてあと15年か20年ですから。(70代)

・死については他所で聞いたことがありませんでした。一日一日を大切に生きる事心にひびきました。(70代)

(その他)

・今後も活躍して行って下さい。(40代)

・我が子へ死生学をどのように教えていったら良いか？まずは自分から手探りで学んでいこうと改めて思った。「死とどう向き合うか」の本は子どもたちへも読んでもらいたいと思っていた一冊でした。そして絵本もそろえたいと思いました。(40代)

・大変参考になりました。(40代)

・今回、絵本の読み手としてお声を掛けていただきました。高橋先生と打ち合わせていただく中で、デーケン氏の存在を知り今日絵本を読ませていただくにあたり、何冊かデーケン氏の著書を学んでから私なりに考えてみました。クリスチャンだった祖父祖母を送った時に悲しいせつないという思いだけでなく、どれだけ幸せな人生だったか家族で語り合い、そして天に召されることが幸せな事と思って送ることができました。(40代)

・夫を平成9年に亡くしました。会えると思うと死は恐ろしくはありません。(70代)

・生きる事、死に向かう事、いずれも強い気持ちで対応。(70代)